

令和7年度第2回苫前町まちづくり審議会 議事録

日 時：令和8年3月26日（木）15：30～16：25
場 所：苫前地区コミュニティセンター 大会議室
出席委員：平田副会長ほか11名（欠席委員8名 うち決議書提出3名）
苫前町：福士町長
総合政策室 加賀谷室長、戸川係長、井上主任

1 開会

加賀谷室長

それでは、定刻には若干早いですが、ご出席予定の皆様もお揃いでございますので、ただ今から令和7年度第2回苫前町まちづくり審議会を開催いたします。

改めまして、総合政策室の加賀谷でございます。

しばらくの間、進行役を務めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

2 挨拶

加賀谷室長

それでは、次第に従いまして、はじめに、福士敦朗苫前町長から、ご挨拶を申し上げます。

福士町長

皆様、ご苦勞様でございます。大変時節柄、お忙しいところ、また午後時間帯にお集まりいただきましてありがとうございます。開会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、皆様、何かとご多用の中、「令和7年度第2回苫前町まちづくり審議会」にご出席を賜り、誠にありがとうございます。又、皆様方におかれましては、町行政全般に渡りまして日頃からお支援とご協力をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。

さて、本日の議題にもあります「第6次苫前町総合振興計画」は、町の最上位計画として今後のまちづくりの方向性を示すものであり、総合的かつ計画的なまちづくりを推進するための指針となる重要な計画であります。

今回の計画では、前回より目標の整理・統合を行い、政策や施策の方向性をより分かりやすく整理するとともに、経済政策や医療・子育て対策及び若者の地域定着支援、防災・減災対策、環境保全や行政の広域連携など、本町にとって重要な課題への対応を重点的に盛り込んでいるところであります。

本日の会議は、後ほど事務局から詳しくご説明申し上げますが、3件の計画についてご審議を賜ります。忌憚のないご意見をお寄せいただき、計画をより実効性の高いものに仕上げるためのお力添えをいただきますよう、お願い申し上げます。

さらに、計画策定後も、町民の生活や地域の営みを次世代へ着実につなぐため、皆さまと共に、持続可能なマチの形成に向けて計画の実行、検証、改善に取り組んでまいりたいと考えているところであります。

結びになります。本日ご出席の皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

加賀谷室長

福士町長でございますが、この後、別の用務がございますことから、ここで退席をさせていただきます。

(福士町長退席)

(配付資料確認)

加賀谷室長

それでは、議事に入ります前に、まず、本日の資料の確認をさせていただきます。

事前配布資料としまして、本日の会議次第、委員名簿、「資料1：第6次苦前町総合振興計画」、「資料2：第3期苦前町まち・ひと・しごと創生総合戦略」、「資料3：苦前町過疎地域持続的発展市町村計画」となっております。

それから、本日追加で、本日の会議の出席者名簿、配席図、そして今年度、まちづくりワークショップを二回ほど開催しまして、そこでファシリテーターを務めていただいた方がまとめていただいた資料の方を併せて添付させていただいているところでございます。

資料の配布漏れですとか、お持ち忘れになられた方がいらっしゃいましたら、どうぞ事務局の方へお知らせください。

(会議成立報告)

加賀谷室長

それでは、改めまして、本日の会議でございますが、委員19名中、オンラインの加藤（悟）委員も含めまして、12名の方のご出席があります。また、欠席の方のうち、3名の方から、議事に対する賛否のご報告もいただいておりますので、委員の過半数が出席しておりますので、会議の成立をご報告いたします。

3 議事

加賀谷室長

それでは、これより議事に入ります。

まちづくり審議会条例に基づきまして、会議の議長は会長が務めていただくこととなっておりますが、本日、会長であります渡部委員がご欠席となっておりますので、本日の議事進行は、副会長でございます平田委員に務めていただきまして、進行して参りますので、よろしくお願いいたします。

平田副会長

それでは、渡部会長が欠席とのことで、ここから進行を務めさせていただきます。よろしくお願いたします。

ただいま、福土町長のご挨拶でもございましたとおり、慎重審議で進めてまいります。議案につきましても、加賀谷室長の方から、十分説明していただけたと思いますので、本日はどうぞよろしくお願いたします。

まず、議案第1号「第6次苫前町総合振興計画の策定について」を議題とします。事務局からご説明をお願いたします。

戸川係長

(議案説明)

平田副会長

それでは、ただ今の説明に対しまして、何かご質問などはございませんでしょうか。(なしの声)

計画書につきましては、事前に配布しているとのことですので、それぞれ何か気がついたことがありましたら、事務局の方に直接お問い合わせいただきたいと思います。

それでは、意見等無いようですので、議案第1号につきましては、ご承認いただいたものとして決定させていただきますが、よろしいでしょうか。

(賛同の声)

ありがとうございます。

加賀谷室長

平田副会長からもありましたが、会議としてはご承認いただきましたが、これだけのページ数なので読み通すだけでも大変かと思っておりますので、後日でも何か気づいた点等ございましたら、遠慮なく事務局までご連絡をお願いたします。

平田副会長

続いて、議案第2号「第3期苫前町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について」を議題とします。事務局から説明をお願いします。

井上主任

(議案説明)

平田副会長

ただ今の説明に対しまして、何かご質問はございませんでしょうか。

(なしの声)

それでは、議案第2号につきましては、ご承認いただいたものとして決定させていただきますが、よろしいでしょうか。

(賛同の声)

ありがとうございます。

加賀谷室長

補足になりますが、この総合戦略につきましては、国の地方創生の取組の考え方に合わせて整理し、並べ直した形になっております。具体的な事務事業については、あくまでも総合振興計画がベースになっておりまして、それぞれ一方にしか出てこないですとか、変わったものがあるという訳ではなく、落とし込み方と言いますか、見せ方を表面的に国の方に合わせて整えている形になっておりますので、内容的には基本的には共通しているというもので、押さえていただければと思います。こちらも総合振興計画同様何かございましたら、ご連絡をお願いいたします。

平田副会長

ありがとうございます。

それでは、議案第3号「苫前町過疎地域持続的発展市町村計画の策定について」を議題とします。

事務局から説明をお願いいたします。

戸川係長

(議案説明)

平田副会長

ありがとうございます。ただいま、事務局の方から説明がありましたけれども、ご質問やご意見等がありますでしょうか。

(なしの声)

それでは、議案第3号につきましては、ご承認いただいたものとして決定させていただきますが、よろしいでしょうか。

(賛同の声)

ありがとうございます。

加賀谷室長

また、私から補足になりますが、こちらの過疎計画は先ほどの説明にもありましたように、国の財政措置引き出すために必要なものとなっております。こうして町の皆さんとお話をして形を整えて、北海道の確認を経て、最終的に国の認定を受けるという流れになっておりまして、はっきりした段取りもありますので、現場で起きたことを即時に反映することが難しい場合や、議会での審議を経て提出する事項も含まれておりますので、なるべく臨機応変にできるように、漏れがなるべく生じないように、広く浅く書いているところがありますので、前段の1、2本目の計画とはちょっと趣が違いますが、そのような形で取り組んでおりますので、行政計画の一つとしてご承知いただければと思います。

(加藤(隆)委員より挙手あり)

加藤(隆)委員

よろしいでしょうか。

議決はされましたが、1点伺いたい。

今年古丹別地区にホクレンショップができる計画があると聞いておりますが、買い物際には、自家用車等の移動手段がなければ、利用が難しいかと思えます。古丹別地区の住民は徒歩での利用も可能かと思えますが、力昼地区や苫前地区の住民にもやっぱり利用してもらうことが望ましいのではないのでしょうか。

そういった移動手段、現在にはにこにこタクシーに限られているかと思えますが、将来的に巡回バスのような、公共交通手段の導入について、今後5年間の計画の中で検討されているのか、教えていただけますでしょうか。

加賀谷室長

現在、私どもの方で、いわゆる公共交通の取組も担当しておりますが、そちらの方で今年度「地域公共交通計画」の策定を進めておりました、今加藤(隆)委員がおっしゃられたような話をどう対応していくのかということも議論しておりました、現在パブリックメントを実施しております。その中では、具体的に実施する取組等は記載しておりませんが、やはり、苫前・古丹別間の移動ニーズも当然ありますし、対応を求めるとも非常に承っているところです。

対応としましては、例えば、新たな交通手段を直ちに導入するのではなく、既存の制度を活用し、にこにこタクシーの利便性の向上や、スクールバスの一般混乗の実施ですとか、ご承知の方もいるかと思えますが、現在山間部で運行しているへき地患者輸送バスについて、通院の利用に加え、商業施設で乗降可能とするなど、直ちに実施できるものではありませんが、色々調査させていただきまして、どんな運用ができるかというところは検討していく予定です。

引き続きの課題として認識しておりますので、ご理解いただければと思います。

加藤(隆)委員

そうですね。これから人口減少が進んで高齢化していくので、そういった部分はとても重要だと思います。

現在は、上平から古丹別で、沿岸バスが運行していますが、中々利用者数が少ない様に見受けられますので、そこに町として財源を投入するのはどうなのかなという部分もありますので、地元のバス会社による運行への移行といった形を取れば、その方が町としてもいいのではないかと思えますので、今おっしゃられたスクールバスですとか、患者輸送バスに同乗できるのも一つの手ですけども、何か方法考えていただければと思います。

加賀谷室長

上平古丹別線について、現在沿岸バスにお願いしてる部分は、加藤(隆)委員の指摘のとおり、日中の利用者数は少なく、朝晩は主に通学する高校生の利用が中心にな

っており、昔は通勤の方にもご利用いただいておりますが、人口減少に伴い利用者数が減少し、学生数も大きく減ってきておりますので、住み分けといえますか、一定の利用者数が見込まれる時間帯につきましては、沿岸バスによるバス輸送としまして、それ以外の時間帯につきましては、より低コストで運行可能なミニバン等の小型車両への移行も含めて検討するなど、いかに最適化していくかということが重要であると認識しております。これも言及いただきましたが、町の予算も限られておりますので、そこも含めまして、課題として考えていきたいと思っております。

平田副会長

あくまでもこれは計画なので、そういったところも含めて見直しは十分していただければと思います。

公共交通も同じく、総合政策室の所管なので、分けてしまわないで、総合的に検討していただければ。

加賀谷室長

そうですね。1つの枠組みでお話ししましたが、スクールバスは当然教育委員会が絡むお話ですし、ここにこタクシーは福祉部署も関係してきますので、収支面も含め、それぞれの施策で単独で動くのではなく、最適な組み合わせで考えていきたいと思っております。

加藤（隆）委員

それはぜひ取り上げていただきたい。

今できるホクレンショップには、町としても予算を投入している訳ですから、町内の人に広く利用していただけることによって、地域の活性化、結果として売上の向上につながるかと思います。

少し論点が異なるかと思いますが、今後、古丹別にできるホクレンショップでも同じ食材を取り扱う話を聞いておりますので、苫前地区の住民で、現在羽幌町の食料品店を利用している方が、ぜひ古丹別の施設を利用していただくという、利用者の取り込みについても検討していただきたいと思っております。

加賀谷室長

もう少ししたら公表できるかと思いますが、施設の図面は概ね関係しておりまして、私も拝見しておりますが、いわゆるバックヤードといえますか、後ろの方で食材の保存や調理が可能な体制で整備することで、品揃えの充実を図り、利用者には選ばれる店舗を目指しております。

品揃えが不十分である場合、利用者のニーズに応えられず利用者が減少し、その結果として品揃えが低下するといった悪循環となる可能性があります。良い商品が揃うことで利用者が増加し、需要の拡大に伴って、更なる商品の充実や投資が促されるといった好循環となるように、町としても農協及びホクレンショップと連携しながら、取り組みたいと思っております。

加藤（隆）委員

苫前地区から古丹別地区までは10 km、羽幌までは8 kmの距離であり、その辺がどうなるのかと思っておりますが、ぜひ頑張ってくださいと思います。

加賀谷室長

今回のホクレンショップにつきましては、単なる店舗だけではなく、地域の皆様が利用できるコミュニティスペースも併設する予定です。商業高校の学生からも様々なアイデアをいただいておりますが、現在、皆さんご承知の苦カフェを町内のイベントなどで実施しておりますが、店舗での継続的な運営ではないですが、農協と連携して今までは売り切る必要のあった商品をバックヤードで預かるなどの工夫を行い、毎週ではないですが、定期的な実施を検討しておりますが、こうした取組の中で、学生のアイデアや思いも結構広がってくると思いますので、コミュニティスペースもうまく連動しながら、来店者や地域住民を呼び込める形で考えていきますので、ぜひまたアイデアをいただきながら、国の交付金も活用しながら、客層の拡大を図りたいと思っております。

また、観光客につきましても、三溪地区へ向かう際に給油するだけでなく、店舗に寄っていただいて、イートインを利用していただく、休憩に使えるようなものになりますので、利用していただいて、町の様子を知っていただく機会につながればとも思っております。

(加藤（隆）委員より挙手あり)

加藤（隆）委員

町内には公営住宅が多くあるかと思いますが、長年居住している方も多いことから、外観については計画的に修繕している話は聞いておりますが、内装が数十年にわたり改修がなく、虫が発生しているとの話を聞いております。居住している以上は内装をリフォームするというのは難しいかもしれませんが、一時的に他の住宅に移っていただいて対応するなど、そういった計画はあるのかどうか教えていただきたい。

加賀谷室長

所管ではないのですが、公営住宅の管理は計画的に実施しているものでありまして、ただ、加藤（隆）委員の指摘のとおり、実際に居住されている一部の住宅では対応出来ていないところなどにつきましては、原課へ確認したいと思います。

加藤（隆）委員

町にまで届いているかは分かりませんが、そういった苦情も聞いておりまして、古丹別地区の住宅については、築年数が経過しているものが多く、特に家族世帯が多く、住みやすい環境で子育てしていただくというのも、人口減少対策になるのではと思っております。

良い環境があれば、そこに住もうという気持ちになりますし、遠方から移住する方もいると聞いています。やはり、良いところ、住みやすいところ、綺麗なところがあれば、そこに住んでくれるのではないかと思います。

加賀谷室長

ご意見ありがとうございます。今おっしゃられたように、本町の子育て支援の取組について評価いただき、苫前町に住んでいただいて、羽幌町で働いている方もいらっしゃいます。

今年度春から始めまして、約1年になりますが、奨学金返還支援補助金というものを実施しておりまして、それが全てではないとは思いますが、制度を通じて羽幌町から転居された方もいらっしゃいますので、次の施策としましては、やはり加藤（隆）委員がおっしゃるとおりで、住環境の整備になるかと思えます。

空き家については存在するものの、利用されていない物件は、状態が悪いものが多く、状態の良いものは、それなりに利用していただいておりますし、この点では公営住宅の役割はあるものと認識しております。

本町に限らず、公営住宅は住宅が不足している、住宅に困っている困窮者の方に対する公的供給が本来の目的です。ご承知の方もいるかもしれませんが、苫前地区のオリオン団地の世帯向け住宅は結構空きがあるものの、入居対象者は規則で決められておりまして、その制約の中で転用等の柔軟な活用も一部で進みつつありますが、制度上のハードルがまだ高く、転用要件を満たさないケースも多く、十分に活用されていない状況です。

近年の物価高騰や子育て世代の住宅事情を踏まえると、従来のように自宅を建築することが当たり前という状況ではなく、本当に必要としている方もおりますので、公営住宅の役割が増しているという側面もあると思えますが、依然として制度的な制約が厳しいというのもありまして、加藤（隆）委員の指摘の視点のとおりかと思えますので、原課とも連携しながら検討を進めていきたいと考えています。

加藤（隆）委員

実際問題として、空いてはいるのですが、なぜ空くのかというと、さきほどのよう事情がありまして、住み替えを進める状況を考えると、やはり少し厳しい面がありますし、家賃も収入に応じてそれなりに高くなると思えます。

現在住んでいるところからは出たいものの、収入が増えると料金も上がるため、なかなか踏み切れないという家庭が複数出てきていると思えます。

空いているところからリフォームを行い、移動していただくというのも一つの手ではないかと思えますが、こうした取組は計画的に進めなければ難しいかと思えますので、資金面の課題もありますが、ぜひご検討をお願いしたいと思います。

平田副会長

その他何かございませんでしょうか。

(花井委員より挙手あり)

花井委員

学校給食の関係ですが、羽幌町も民間委託となっており、小平町も同様の方向で現在検討中と聞いております。民間委託が増えている中で、古丹別の給食センターでは、米をはじめとした地元食材を積極的に使用していただいております。

配布資料を見る限り、什器類を更新しながら運営していくような格好で書いてありますが、10年という長いスパンの中でどう進めていくのか、検討状況について教えていただきたい。

加賀谷室長

はい、ご指摘の部分は多分検討されてはいないと思います。

給食センター設備の投資には、現行の食品衛生基準とかのハードルがものすごく高く、結構な費用が必要となります。その中で少子化が進んでおりますので、どの程度の量が将来的に必要なのか分からない状況です。そのため、費用対効果の面で設備投資については、行政では難しい状況であり、人材不足の問題もありまして、その結果として、ご指摘のとおり、民間委託が増えてきている状況かと思っております。

花井委員

できるだけ地元でそういった給食センターがあれば、地元の食材を使っただけなので、経費がかかってしまうのは、存じ上げておりますが、なんとか存続していただけるとありがたいと思います。

加賀谷室長

ここで明確に回答はいたしかねますが、ご意見として承ります。

地元の学校給食につきましては、無償化もさせていただいておりますので、地元食材でコストは高くなったとしても、子どもたちに良いものを食べてもらおうということで取り組んでおりますので、今後も、可能な限り続けていきたいと思っております。

平田副会長

大事なことだと思います。民間へ移行してしまうと、地元食材の使用などが出来なくなってしまうと、費用対効果の面で行けば、民間への移行が現実的かと思っておりますが、町全体のことを考えて検討していただきたい。

花井委員

平田副会長が言ったようなことは、非常に大切なことで、本当にこのまちづくりの大きな要因になると考えている。たとえ他の町に住んでいたとしても、地元の食材を取り寄せて購入、消費していただけることは、町としても非常にありがたいことだと思います。

水稻部会による米の提供や、蔬菜部会によるメロン、かぼちゃなどの地元食材の提供についても、地元で消費していただける施設があるからこそ可能な取組でして、これらが無くなってしまおうとした取組も継続できなくなるため、今後も手元に残していただけるとありがたいと思います。

加賀谷室長

そうですね。本当に産業団体の皆様が支援してくださっているということもありますので、そちらはうまく残していけるように検討したいと思います。

平田副会長

はい、他はございませんでしょうか。無いようであれば、本日予定しておりました議事につきましては、3件全て可決とさせていただきますので、よろしく願いいたします。

4 その他

平田副会長

本日の議事は以上でございますが、委員の皆様から、「その他」ということで、何かありませんでしょうか。

それでは、事務局からは、何かありますか。

加賀谷室長

事務局からは、特段用意しておりませんが、本日の説明の中でもありましたように、計画を作って終わりということではなくて、やはりどんな進捗かといいますか、最後ご意見いただいたとおり、そう言えばといったお話があったりしますので、計画の進行ですとか、途中で見ながら、来年度中にでも、ワークショップ形式など、色々考えておりますので、何かまちづくりに関して皆さんと意見交換し、他の住民の皆さんも同様に、平場で色々ざっくばらんにお話できる機会を設けていきたいと思っております。

ぜひ委員の皆様にもご協力ご参加いただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

5 閉会

平田副会長

それでは、以上をもちまして、本日の会議は終了といたします。
ありがとうございました。